

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月28日
函館市立南茅部小学校

1 本年度の重点教育目標

主体的に学び、新たな課題の解決に向かう「こころ」と「ちから」をもつ子供の育成
～学び合い、高め合い、やりぬく子～

2 本年度の取組の重点

- ① 児童一人一人の確かな学力の定着・向上を図る学習指導の充実
- ② 児童一人一人を大切にしながら、児童の心を育てる教育活動の推進
- ③ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- ④ より働きやすい環境の整備
- ⑤ 家庭・地域との連携による開かれた学校・信頼される学校づくりの推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価
① 児童一人一人の確かな学力の定着・向上を図る学習指導の充実	・個別最適な学びと協働的な学びを保障する確かな学力の定着・向上を図る授業の工夫・改善をすることができたか。	b	個の理解度に応じた指導や協働的な学びを適切に取り入れながら、基礎基本の定着および授業改善をさらに推進していく。	A A 7	A
	・文字に触れる機会を多くするための読書指導の充実やGIGAスクール構想に基づく教育活動の工夫・改善をすることができたか。	a	毎月の読書タイムの取組に加え、図書司書による貸出の工夫で読書への興味が少しずつ上がってきた。	A A 7	A
② 児童一人一人を大切にしながら、児童の心を育てる教育活動の推進	・学校の全教育活動における望ましい仲間づくり、集団づくりを推進し、集団への所属感や連帯意識を深め、自己肯定感を育むことができたか。	a	3校による統合3年目を迎え、それぞれの持ち味を交流し合って新しい関係づくりを通して自己肯定感を高めている。	A A 7	A
	・道徳教育の充実を図るとともに、自尊感情を高め他者を思いやる心情を育み、いじめ未然防止等にかかわる教育活動の工夫を図ることができたか。	a	授業で学んだことを実生活で生かそうとしたり、相手意識に立った言動がとれている。	A	A A 6 B 1
③ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	・特別な支援が必要な児童の状態を正確に把握し、関係機関と連携しながら社会的自立を目指す教育活動を充実することができたか。	b	特別支援教育に関わる研修を充実したり、支援委員会で個別支援のあり方を話し合ったりしながら、特別支援教育の理解を深め、全体で共有して指導していく。	A	A A 6 B 1
	・共感的児童理解に立った生徒指導と相談活動の充実を図るとともに、不登校傾向の児童への組織的対応を推進することができたか。	b	全児童の個性を伸ばすことや、自己の成長への意欲を高めることをねらいとした生徒指導に重点を置き、組織的な対応を継続していく。	A A 6 B 1	A
④ より働きやすい環境の整備	・人数に見合った校内組織への変革を実施し、教職員が適切な役割を果たすとともに、相互に連携しながら教育活動に取り組むことができたか。	b	職員定数に対し欠員が出ている現状を踏まえたうえで、教職員が常に連携・補完しながら業務量や推進計画のPDCAサイクルを回し、改善を図る。	A A 6 B 1	A A 6 B 1
	・働き方改革から、新時代の働く姿の日常化を図り、学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a	職員が一丸となって働き方改革を自分事と捉え直し、ワークライフバランスを意識した働き方を推進している。	A A 7	A
⑤ 家庭・地域との連携による開かれた学校・信頼される学校づくりの推進	・コミュニティ・スクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	a	参観日や行事での来校から成果について再確認していくとともに、課題の共有化を図っている。	A A 7	A
	・学校外の教育力の活用と、各種通信、安心メール等を通じた情報の発信をすることができたか。	a	メールでの配信をあらためて配信するとともに、来年以降をめどにホームページを開設し、さらなる発信を行っていく	A A 7	A

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。